

墓石の調査をとおして

平成20年1月から、市内の墓石を調査しました。古くからある墓石を調査するところなことがわかつてきます。地元の竜山石がどうで、どのように使われたのか、人々がどのように葬られてきたのか、などです。

調査の対象は、近世からの集落にある、市内全域の墓地95カ所です。あまりにも、膨大な数になるので、二つの調査方法で実施しました。

荒井の利生寺・曾根の共同墓地・阿弥陀の共同墓地・中筋の時光寺・米田の共同墓地は、詳しく調査をしました。この5カ所は、墓地内の全ての墓石で、石の材質、形態、建立年等です。他の90カ所は、1900年以前の建立のものは、全ての墓石の形態、建立年等で、1901年以降の建立のものは、石の材質のみを調査しました。

調査の結果、高砂市内に、

約3万基の墓石が確認されました。その内訳は、竜山石製が30%、和泉砂岩製が12%、花崗岩製が56%、その他石材が2%あります。

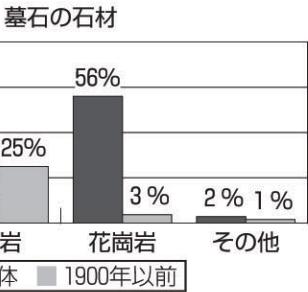
一方、1900年（明治33年）以前の墓石にしぼります。

込むと、竜山石製が71%、

和30年代以降は、ほとんど
の墓石が花崗岩で造られ、
地場産業である竜山石製
墓石は見られなくなっています。
最近は特に外国産の
花崗岩製の墓石が多く見ら
れます。竜山石石材の切り
出し、加工技術を将来にわ
たつて伝承していくかなくて
はならないと痛切に感じま
した。



また、寺子屋の先生、力士の墓、芸能関係者の墓等も確認しました。墓石から、歴史や文化をのぞくことができます。今後も、これらの資料を整理し、歴史や文化を伝え、活用を図っていきたいと考えています。
(竜山石文化会 高原孝明)



年号が刻まれている墓石のうち、一番古いものは元和7年（1621）を確認することができました。

調査をしていましたと、昭